令和４年度第１回野辺地町総合教育会議　会議録

|  |  |
| --- | --- |
| 日　時 | 令和４年４月２６日（火）　午後２時３０分～午後３時１５分 |
| 場　所 | 野辺地町中央公民館　２階　第１研修室 |
| 出席者 | （会議構成員）  ・野村　秀雄（町長）  ・新渡　幹夫（教育長）  ・中村　公允（教育委員）　　・野坂　幸子（教育委員）  ・林　　　亨（教育委員）　　・杉山　道彦（教育委員）  （教育委員会事務局）  ・冨吉　卓弥（学校教育課　課長）　・中野　良喜（学校教育課指導室　室長）  ・五十嵐　洋介（社会教育・スポーツ課　課長、中央公民館等　館長）  ・飯田　満（学校教育課　課長補佐）  ・二ツ森　知貴（社会教育・スポーツ課長補佐、中央公民館等　館長補佐）  ・米内山　周大（社会教育・スポーツ課　主幹）  ・藤谷　俊徳（学校教育課　総括主査）　　　　　　　　　　　　　　（敬称略） |
| 欠席者 | なし |
| 司会進行 | 教育委員会事務局　（学校教育課　飯田課長補佐） |
| 内容 | 町長挨拶  案　　件  **（１）令和４年度教育委員会主要施策について**  ■冨吉課長、五十嵐課長、二ツ森館長補佐から、令和４年度教育委員会主要施策について説明した。  　【補足説明事項】  ・（冨吉課長 ／ ［小学校統廃合事業］について）  令和５年４月の先行統合に向け、事業や必要事項を協議する。閉校記念式典、閉校記念誌、記念事業（ドローンでの写真撮影等）、指定ジャージの購入補助の事業費を計上している。  ・（冨吉課長 ／ ［統合小学校新築事業］について）  統合小学校の新校舎建設を進めるために、十分な国庫負担金の対象となる見込みと早急な改築が必要かどうかを判断するために、耐力度調査予備調査を野辺地小学校を対象として実施する。  ・（冨吉課長 ／ ［ＧＩＧＡスクール推進事業におけるＩＣＴ支援員の配置］について）  端末の効率的・安定的管理や不得手な教員への補助及び援助、操作が遅れた児童生徒へのサポートを行う支援員を６月から配置し、ＩＣＴ機器活用能力の向上やＩＣＴ教育の充実を図る。  ・（冨吉課長 ／ ［元気モリモリ応援事業］について）  地元の製菓店からお菓子を提供していただき、給食時の楽しみの一つとしてもらうことや、郷土のお菓子を知ること、親しみを持ってもらうことを目的とする。  ・（五十嵐課長 ／ ［社会教育・社会体育施設整備事業］について）  老朽化している各施設を、利用者が安全かつ安心して利用できるよう、計画的、継続的な改修が必要。緊急性が高いものについては早急に対処しているが、新たに修繕箇所が見込まれる可能性は非常に高く、備品についても計画的な更新が必要となっている。主に町立体育館、屋内温水プール、有戸地区学習等供用センターなど。  ・（五十嵐課長 ／ ［国民スポーツ大会に向けた啓発事業］について）  令和３年度から国民スポーツ大会青森大会開催年度(令和８年度開催予定)までを事業期間とし、スポーツ講演会やトレーニング実践指導等を毎年実施し、町民のスポーツ意識の向上を図りながら、当町から国民スポーツ大会青森大会に出場する選手の輩出と、スポーツを通した町の活性化を目指す。今年度はオリンピック選手の講演会を考えている。  ・（五十嵐課長 ／ ［競技スポーツ強化支援事業］について）  　　　　全国大会・東北大会に出場する町内小学生(スポ少)、中学生、高校生に対して、事前の強化合宿及び強化遠征に必要な経費を助成し、大会での上位入賞を支援するとともに、野辺地町の子どもたちの目標となる選手の育成と競技力の向上を目指す。昨年度実績は野辺地西高校サッカー部２件、空手部１件、野辺地中学校スキー部１件、野辺地高校スキー部４件で合計１２９万６千円であった。  ・（五十嵐課長 ／ ［社会教育及び社会体育団体に対する補助金交付事業］について）  　社会教育団体及び社会体育団体に対しての補助交付事業で、今年度は青森県で東北総合体育大会が開催される予定であり、当町ではハンドボール競技の開催地となることで、新たに１団体追加している。各団体の活動を支援することで、生涯を通じて明るく豊かな活動や生活の一助に繫がるほか、各分野における継続的な活動の維持・継続に結び付き、活力あるまちづくりに寄与する。  ・（二ツ森館長補佐 ／ ［公民館施設維持補修事業〈中央公民館〉］について）  今年度は主に公民館内部、特にホールを中心に音響設備更新工事、ステージ緞帳入替工事、非常用照明更新工事、自動ドア防護柵設置工事の４つの工事を予定している。  ・（二ツ森館長補佐／［図書館管理システム更新事業〈図書館〉］について）  図書館管理システムの更新により、図書館のホームページから図書の予約を可能とするなど利便性を高め、図書館サービスの向上を図る。また、システムをクラウド化することにより、常に最新の所蔵状況を提供できるとともに、災害時のリスク回避に努める。  ・（二ツ森館長補佐／［祝日開館の実施〈図書館〉］について）  利用者からの要望があった、休館としていた祝日を開館することとする（年間１５日）。  ・（二ツ森館長補佐／［日本遺産認定３港連携事業〈歴史民俗資料館〉］について）  　　県内の北前船寄港地であり、日本遺産認定町である鰺ヶ沢町、深浦町、野辺地町が連携し、文化財保護・活用人財の育成及び地域活性化を目的とした各種ＰＲ事業を実施する。具体的には、日本遺産関連文化財を巡るまち歩きをリレー形式で実施。また、３町に足を運んでもらうため、昨年度作成したご当地ミニ船絵馬をまち歩き参加者へのノベルティとして配布し、３町を巡る仕組みを作る予定。その他、弘前駅でのパネル展示や、小学生を対象としたふるさと学習を行う予定。  ・（二ツ森館長補佐／［歴史民俗資料館収蔵資料整備・活用事業〈歴史民俗資料館〉］について）  　　　郷土を愛する人財育成に寄与することを目的として、弘前大学人文社会科学部と連携し、民俗資料展示コーナーのリニューアルを行う。令和２年度において民俗資料の調査を実施したが、令和３年度はさらなる調査・資料収集を行った上、展示の入替えに取り掛かり、リニューアル完了は今年度の予定となっている。  ・（二ツ森館長補佐／［縄文くらら活用・ＰＲ事業〈歴史民俗資料館〉］について）  　　　国指定重要文化財・土偶(愛称：縄文くらら)を活用し、町内外への町の文化財認知度向上と情報発信を行い、文化財保護や郷土を愛する人財育成を目指す。  閉　　　会 |